

第1号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策計画書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 104-0055
住 所 東京都中央区豊海町4-18 東京水産ビル6階
氏 名 株式会社マルハニチロ物流
代表取締役社長 岡崎 博
(代理人) 関東支社長 竹内 好弘
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策の推進に関する条例第9条第1項(同条第4項において読み替えて準用する場合を含む。)の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	(株)マルハニチロ物流			
主たる事務所又は 事業所の所在地	川崎市 川崎区東扇島17-7			
該当する事業者 の要件	☒ 規則第4条第1号該当事業者			
	☐ 規則第4条第2号該当事業者			
	☐ 規則第4条第3号該当事業者			
	☐ 規則第4条第4号該当事業者			
	☐ 上記以外の事業者(任意提出事業者)			
主たる事業 の業種	大分類	H	運輸業、郵便業	
	中分類	47	倉庫業	
主たる事業 の内容	主として冷凍貨物品の保管を行っている。			
事業者の規模	☒ 原油換算エネルギー使用量		2,291 k l	
	☐ 自動車の台数		台	
	☐ エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂	
連絡先	担当部署	担当部署名		
		所在地		
	電話番号			
	FAX番号			
	メールアドレス			
※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計 画 期 間	2020 年度 ~ 2022 年度
温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第1号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第1号のとおり
備 考	当社の地球温暖化対策の取り組みについては、ホームページにて公表しています。 https://www.logi.maruhachiro.co.jp/upload/news/13320001635e93cf84f026d.pdf

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
- 2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
- 3 計画書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
- 4 ※印の欄は記入しないでください。
- 5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策計画

1 温室効果ガスの排出の量の削減を図るための基本方針

(1) 温室効果ガス排出量削減に向けた方針

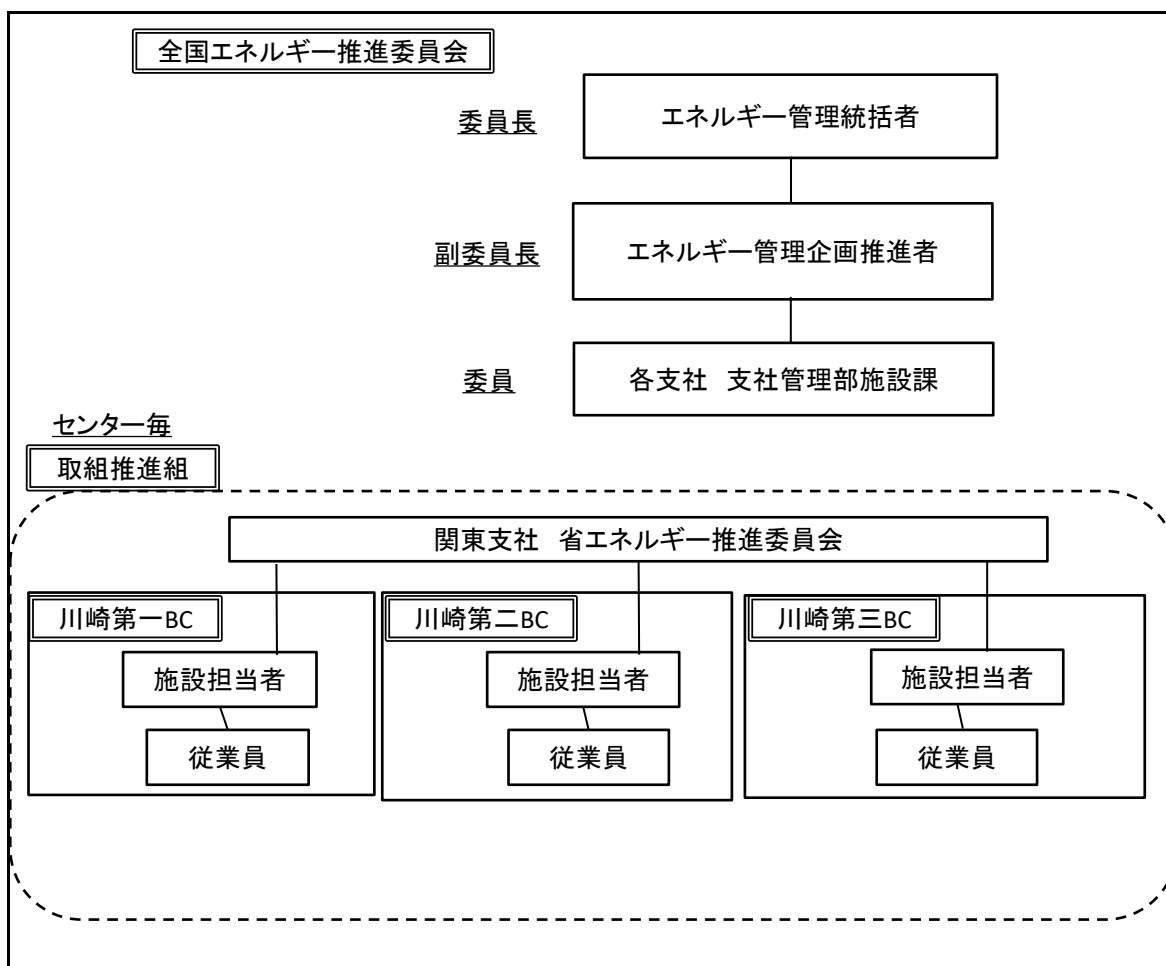
1. エネルギー管理方針
当社の品質・環境方針を受け、各センター・事業所内の省エネルギー活動を推進する。
・実施及び運用
①省エネ法の遵守 ②エネルギーの使用の合理化に関する方策並びに施設部長への意見具申
③エネルギー管理標準の制定・改廃に関する立案
2. 川崎 3 センターの基本方針
①エネルギー管理方針より各センターにて管理標準の制定を行い、目標を持って行動する。
②省エネ機器を計画的に導入する。③省エネルギーに関する啓蒙活動を行いセンター職員に周知徹底を図る。

(2) 削減対策実施状況の適切な進行管理（P D C A サイクル）を行うための方針

- ①川崎 3 センターの排出量削減計画に基づき、省エネ及び排出量削減の目標設定を行い、年度計画を策定する。
具体的な実施項目と予算化する必要のあるものを毎月実施の川崎地区省エネルギー推進委員会にて確認・共有する。
- ②年度計画の実施項目の進捗管理とエネルギー使用量及び排出量の実績管理を行い、設備運営上の省エネ課題を抽出し、年度計画の見直しを行う。
- ③省エネルギー推進委員会で省エネ及び排出量削減効果の検証を行い、その評価を行う。また、その評価により実施項目の G o / S t o p 判断を行う。

以上の基本方針により P D C A サイクルを実行・管理する。

2 温室効果ガスの排出の量の削減に向けた組織体制



3 温室効果ガスの排出の量の削減目標等

(1) 温室効果ガスの排出の量の削減目標及び温室効果ガスの排出の量等

ア 基準排出量と目標排出量（（実）は実排出量を、（調）は調整後排出量を示す。以下同じ。）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
基 準 年 度		2019		年度	
目 標 年 度		2022		年度	
基 準 排 出 量	(実)	4,325		(実)	
	(調)	4,206 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
目 標 排 出 量	(実)	4,195		(実)	
	(調)	4,080 t-CO ₂		(調)	t-CO ₂
削 減 量		(実)	130 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
内 訳	対策実施による削減量	(実)	130 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
	上記以外の削減量	(実)	0 t-CO ₂	(実)	t-CO ₂
削 減 率		(実)	3.0 %	(実)	%

イ 基準排出量原単位等と目標排出量原単位等（任意記載）

		1、2、4号該当者等		3号該当者等	
原 単 位 等 の 活 動 量		倉庫トン			
原 単 位 の 単 位		t-CO ₂ /吨			
基 準 年 度 の 値		0.04728			
目 標 年 度 の 値		0.04586			
削 減 率		3.0 %		%	

ウ 目標設定に関する説明

川崎第一物流センターは2014年度冷凍機更新（省エネ機器）、2016・2017年度LED機器への更新を行っている。川崎第二物流センターでは2016年度までに94%LED照明へ更新している。2019年度にはトラックパースの一部に有圧扇を設置して外気の流入を防いでいる。川崎第三物流センターは2014年竣工で省エネ型冷凍機、全館LED、太陽光発電の使用、陽圧空調等による新入熱の遮断、最新の防熱外壁を使用している社内でもっとも原単位の低い施設となっている。

その中で①接車パースの外気侵入対策、②蛍光灯照明のLED化、③事務所空調機の一部更新、④事務所空調機設定温度の表示や冷凍機の季節に合わせた温度スケジュール管理強化を図ることによって、前回計画に引き続き年間1%、3年間で3%を削減目標とする。

(2) 温室効果ガスの排出の量の削減目標（全社目標）（任意記載）

1. 全国施設担当者会議を年3回実施し省エネに関する意見・情報交換を行う。
2. エネルギー使用量の高いセンターを会社独自に充填監視センターとして注意を促す。
3. 事務所に積極的にクールビズ・ウォームビズを推奨。空調機等の節電に励む。

4 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の内容に係る事項

(1) 措置の内容

ア 計画期間に実施する措置の内容（別表第 1 から 6 等を参考に記載してください。）

計 画	①接車バース外気侵入対策による節電 ・トラックバースと車両の密着度を上げ外気侵入を防ぐ。 - 劣化したバースパッドの交換 ・有圧扇の設置により外気を外に逃がし空調機器の運転時間削減 ②蛍光灯照明のLED化 川崎第一、川崎第二にて照明のLED化を進める。 ③事務所空調機の更新により省エネを図る ④事務所空調機設定温度の表示、冷凍機温度スケジュールの管理強化 温度表示、スイッチオンオフの確認シールの貼付・表示により節電意識を高める。 冷凍機の温度スケジュールを確認強化することにより冷凍機運転の高効率化を図る。	
第 1 年度		
第 2 年度		
第 3 年度		
計画期間における取組の評価 (第 3 年度の報告時に記載)		

イ 実施済みの主な温室効果ガスの排出の量の削減対策内容

(1) 川崎第一物流センターにて冷凍機更新（省エネ機器）、建物内荷捌き場LED化工事実施。 (2) 川崎第二物流センターにて接車バースに一部有圧扇を設置 (外部から侵入する暖気を外へ排出) (3) 川崎第三物流センターにて接車バースのボトムパッド交換実施。 (トラック接車時の外気侵入を軽減)

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 基準年度までに実施した再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(検討済みの場合は「○」、未検討の場合は「×」を記載し、検討済みの場合は検討結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	検討の有無	検 討 結 果
太 陽 光	○	屋上が軽量コンクリートということもあり重量物を設置できない。
風 力	×	
バ イ オ マ ス	×	
未 利 用 エ ネ ル ギ ー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電	年間：7500Kw程度 導入場所：川崎第三物流センター	2013年度

(3) 基準年度までに実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入・検討状況

(導入済みの場合は「○」、導入検討中の場合は「△」、導入予定なしの場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	導入等の状況	設備等の種類	導入等の状況
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム (FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

5 他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置に係る事項

計 画	なし
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

6 その他、地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項

計 画	グリーン経営の推進及び新規認証取得 環境問題への取り組みの一環として、省エネ設備の導入や廃棄物の適正 管理、環境教育を実施、エコマーク製品の優先購入をする。 未取得センターの認証取得を目指す。
第 1 年度	
第 2 年度	
第 3 年度	

7 基準年度のエネルギー起源CO₂の排出の量等の実績（1、2号該当者等）

(1) 事業者単位

ア エネルギー起源CO₂の排出量

(実)	4,325	t-CO ₂
(調)	-	

イ 原油換算エネルギー使用量

2,291	K L
-------	-----

ウ 事業所の数

3

(2) 事業所等单位

ア 年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

イ 年間の原油換算エネルギー使用量が原油換算で 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量
川崎第二物流センター	川崎区東扇島17-7	1,876 t-CO ₂
川崎第一物流センター	川崎区東扇島25-2	1,570 t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂